

富士見市防災環境カルテ 打越町会

位置番号 26

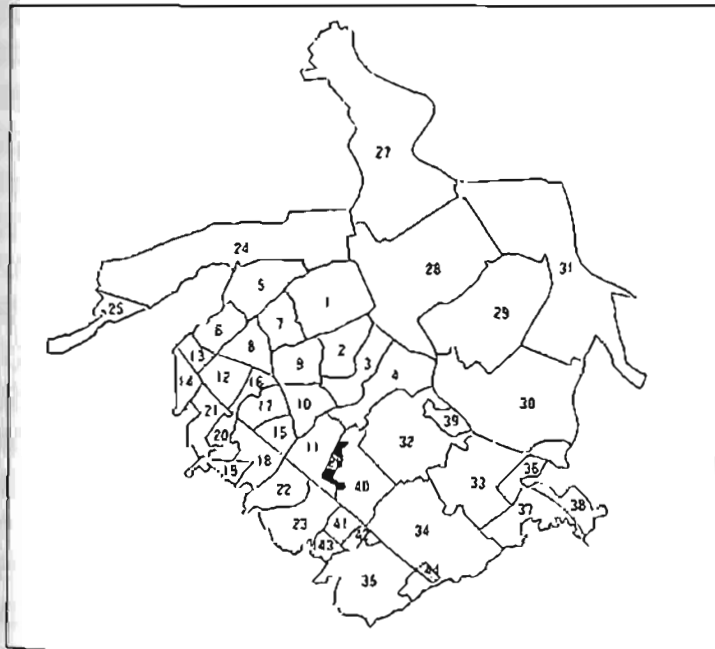
概況

打越町会は、富士見市の中央部に位置し、北側の前谷町会に接する低地（富士見江川に沿った谷底平野）が町会の中心部を北から南へ貫通し、東側には水谷第8町会の台地へ向かう急な斜面〔段丘崖（急）〕と、南東側に少し入り込んだ台地で形成されている。富士見江川に沿った低地（谷底平野）は、盛土されて宅地化が進み、住宅密集地域となっている。昭和34年以前この地域は、家屋棟数（2棟）も少なく、主に稲作、畑作を営む農村地帯であった。南側には県道大井・朝霞線が通っている。

水害は、富士見江川の改修工事が進みほとんど発生していない。

地震災害は、富士見江川沿いの木造建物密集地で火災が発生した場合、延焼の危険性が高く、また、東側の急斜面の崖が崩れて、斜面下の住宅密集地で被害を受けることが予想される。

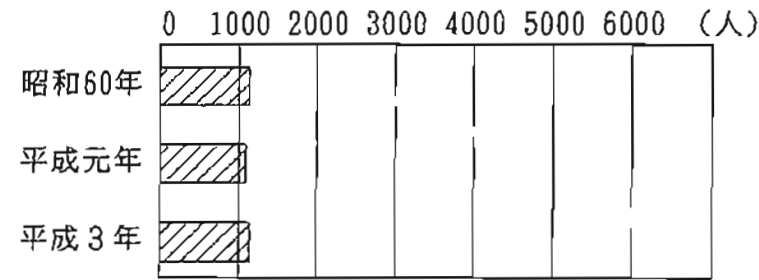
位置図



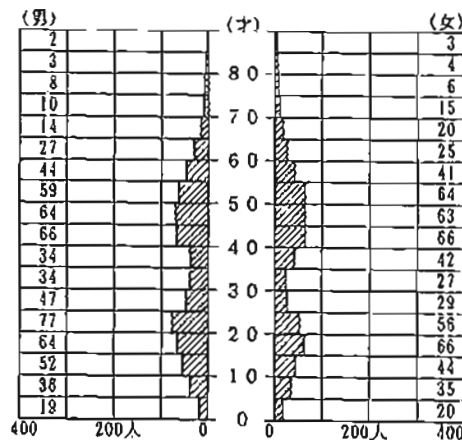
1. 基礎指標

| | |
|------------------|------------------------------|
| ・面積 | 0.044 km ² |
| ・人口(平成3年10月1日現在) | 男 575人 女 546人 計 1,121人 |
| ・人口密度 | 25,477.3人/km ² |
| ・寝たきり老人数 | 4人 |
| ・ひとり暮らし老人数 | 6人 |
| ・世帯数 | 383世帯 |

人口推移

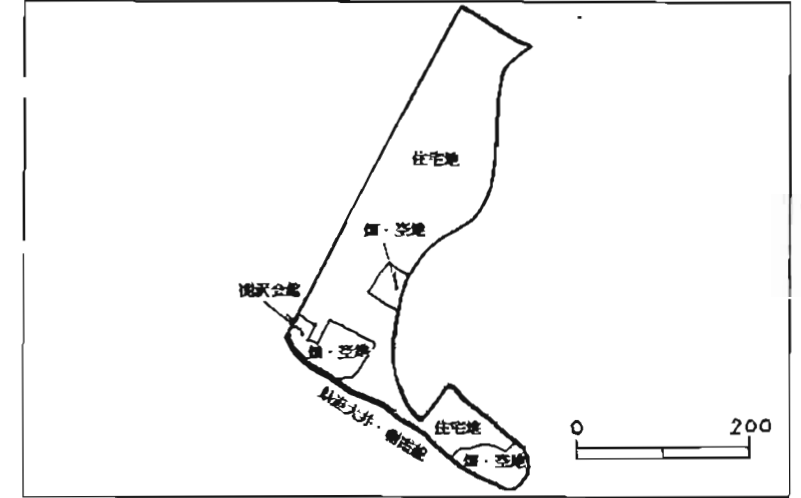


年齢別人口(平成3年)

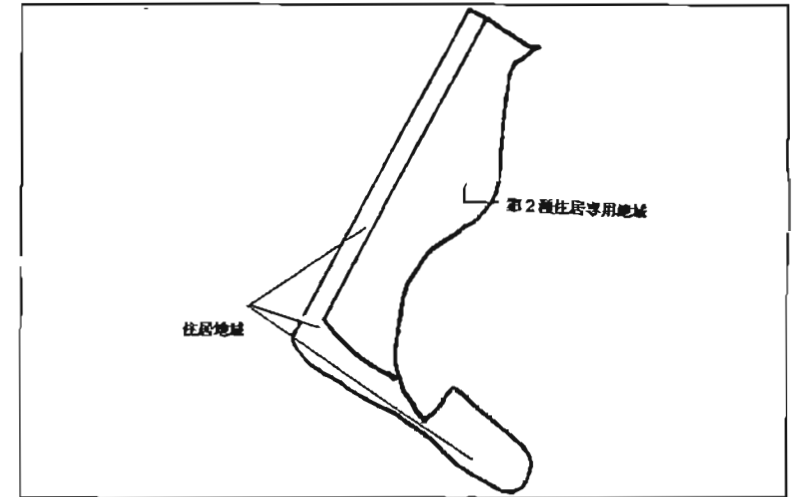


| | |
|------------|-------|
| ・商住工混在率住居系 | 92.0% |
| 店舖系 | 5.8% |
| 工業系 | 2.2% |

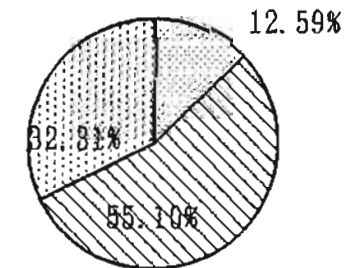
町会現況図



用途地域図



土地利用現況



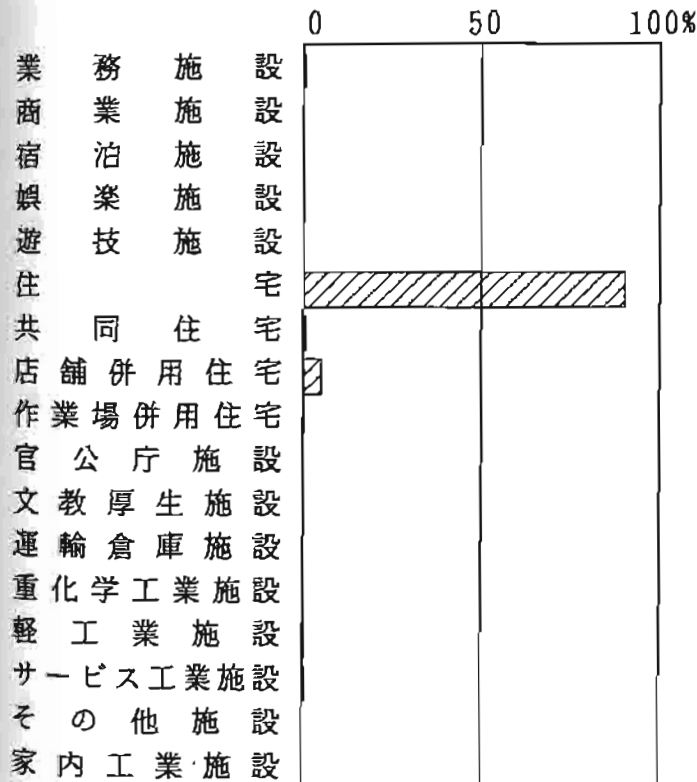
土地利用凡例

- 農地
- 山林・原野
- 市街地(宅地)
- 空地
- その他

2. 建物指標

| | | |
|------------------|--------------|-------|
| ・建物棟数 | 539棟 | |
| ・木造建物 | 517棟 | |
| ・非木造建物 | 22棟 | |
| ・建物面積 | 14,119.60㎡ | |
| ・木造建物 | 13,131.80㎡ | |
| ・非木造建物 | 987.80㎡ | |
| ※建物面積は1階の面積 | | |
| ・住宅率 | 90.2% | |
| ・木造率 | 95.9% (517棟) | |
| ・昭和34年以前の木造家屋実棟数 | 2棟 | |
| ・同上率 | 0.4% | |
| ・建物階層別現況(木造建物) | | |
| 1階 | 60棟 | 11.6% |
| 2階以上 | 457棟 | 88.4% |

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

| | | |
|-----------------|------|----------|
| ・道路率 | 22本 | 500.0本/㎡ |
| ・幹線道路率 | 0本 | 0本/㎡ |
| ・公共空地面積 | 0㎡ | |
| ・公共空地率 | 0% | |
| ・1人あたり公共空地 | 0㎡/人 | |
| ・公共空地内容(*指定避難所) | | |
| 名称 | 面積 | |
| 1. 高校 | 0㎡ | |
| 2. 中学校 | 0㎡ | |
| 3. 小学校 | 0㎡ | |
| 4. 公園 | 0㎡ | |

4. 消防指標

| | |
|-------------|--|
| 所轄消防署 | 入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部 |
| ・消火栓本数 | 5本 |
| ・1消火栓あたり世帯数 | 76.6世帯/本 |
| ・消防水利貯水施設数 | 1 (0) か所 ()内は容量40トン以上の施設数 |
| ・消防団機械器具置場 | 0 |

5. 危険物指標

| | |
|----------------|-----|
| ・給油取扱所 | 0か所 |
| ・一般取扱所 | 1か所 |
| ・屋内・屋外(タンク)貯蔵所 | 0か所 |
| ・地下タンク貯蔵所 | 0か所 |

6. 既往災害

| | | | |
|------------------|-----|-----|------|
| ・家屋浸水被害 | 床下 | 床上 | 道路冠水 |
| 昭和51年 9月(氾17号) | 86棟 | 0棟 | か所 |
| ” 56年 10月(氾24号) | 10棟 | 10棟 | か所 |
| ” 57年 9月(氾18号) | 38棟 | 20棟 | か所 |
| 年 月() | 棟 | 棟 | か所 |
| 年 月() | 棟 | 棟 | か所 |
| 年 月() | 棟 | 棟 | か所 |
| 年 月() | 棟 | 棟 | か所 |
| 年 月() | 棟 | 棟 | か所 |
| ・崖崩れ被害 (年 ~ 年) | | | 0件 |
| ・火災出火件数 (年 ~ 年) | | | 0件 |
| ・1923関東大地震被害 | | | |
| 家屋全壊 | | | 0戸 |
| 家屋半壊 | | | 0戸 |
| 被害率 | | | 0% |

7. 防災基盤施設

| | | |
|----------------|-------|----------------|
| 消防 | 0か所 | |
| 病院 | 0か所 | |
| 医院 | 2か所 | 原田医院, みずほ台産婦人科 |
| 休日診療所 | 0か所 | |
| 警察 | 0か所 | 警察署 派出所 |
| 水防施設 その他の施設 | 0か所 | |
| ・自主防災組織(数) | 打越町会 | 1 |
| ・自主防災組織参加世帯率 | 98.6% | |
| ・飲用井戸本数 | 0本 | |

8. 危険度評価

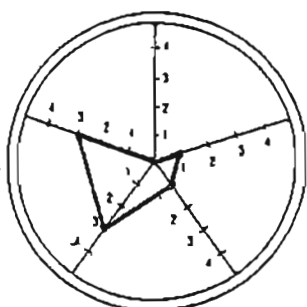
| | |
|------------|------|
| ・内水災害危険度 | 0ランク |
| ・外水災害危険度 | 0ランク |
| ・土砂災害危険度 | 3ランク |
| ・木造建物被害危険度 | 1ランク |
| ・木造建物出火危険度 | 1ランク |
| ・木造建物延焼危険度 | 3ランク |

| | | | |
|-----|-----------|------|---------|
| 地盤 | 地盤の地震動危険度 | 台地 1 | 低地 3ランク |
| 危険度 | 液状化危険度 | 台地 0 | 〃 3ランク |

※ 危険度評価ランク

| | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|
| 危険度 | 無 | 微 | 小 | 中 | 大 |
| ランク | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |

内水災害危険度



液状化危険度

木造建物被害危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

※ 想定震度 6(+) (烈震(強))

9. 地盤条件

町会全体が低地（鶴馬3丁目15番地から30番地内）浸食斜面を含む低位段丘（鶴馬3丁目31番地から32番地）で比較的軟らかい地盤にある。一部、低地に比較して硬い地盤の急斜面の崖と、南東側に地盤の硬い台地（東みずほ台3丁目6番地付近）がある。低地部で震度6(+)（烈震の強い方）、低位段丘で震度6(-)（烈震の弱い方）、また、台地部で震度5(+)の地震が予想される。

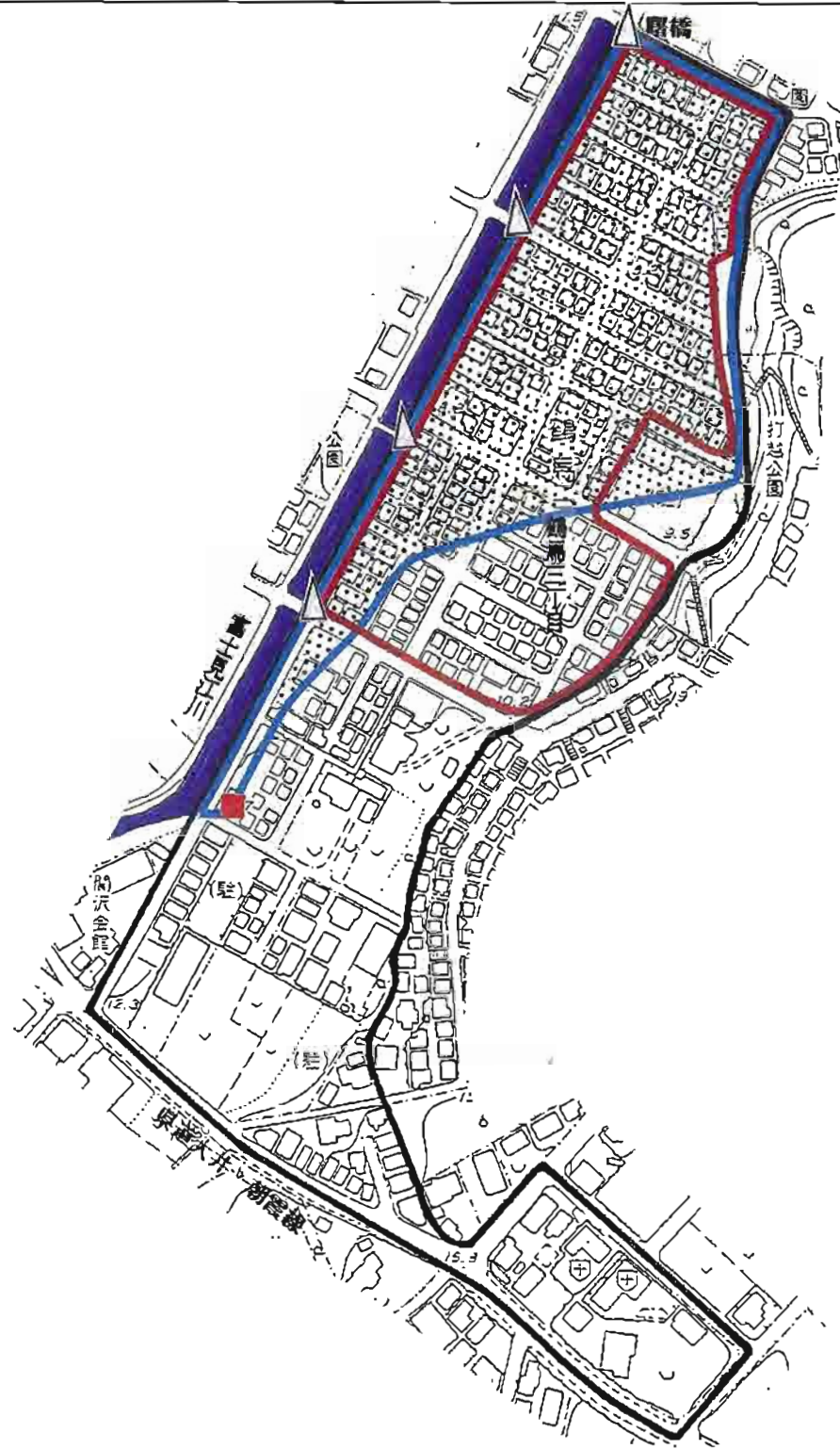
10. 問題点の整理

| 災害発生要因 | | 災害抑止要因 | |
|-----------|--|----------|---|
| 1. 内水災害 | 富士見江川の改修工事が進みほとんど発生していない。 | 1. 水防能力 | 水防施設は無い。 |
| 2. 外水災害 | 無い。 | 2. 防災組織 | 打越町会で組織されている。 |
| 3. 倒壊危険 | 富士見江川沿いの古い木造建物で倒壊の恐れがややあると予想されたため注意を要する。 | 3. 消防能力 | 世帯数と比較して消火栓や消防水利貯水施設は十分でない。富士見江川沿いの住宅地内にある生活道路の幅員の狭い所があるので、消防車の消火活動が妨げられる。 |
| 4. 出火危険 | 出火の危険性は低いと予想される。 | 4. 防火能力 | 木造家屋密集地域の防火能力が低い。 |
| 5. 延焼危険 | 不燃領域率は50%以下と見込まれるため、富士見江川沿いの住宅地で火災が発生した場合、延焼の危険性が高いと予想されるので注意を要する。 | 5. 避難収容力 | 町会内には指定避難所がないため、みずほ台小学校（水谷第8町会）を共用する。ただし、水谷第8町会は、地震火災の危険性が低いと予想されるため、水谷第8町会の避難者は少ないと推測される。したがって、収容力は、十分と思われる。 |
| 6. その他の災害 | 低地（富士見江川沿い）で液状化が予想される。北東部の急斜面（崖）で崖崩れの恐れがややあると予想されるので注意を要する。 | | |

11. 解決の方向性

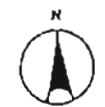
富士見江川沿いの住宅地で火災が発生した場合、延焼の危険性があると予想されるので消防能力、防火能力の改善が望まれる。
打越町会内には指定避難所がないため、みずほ台小学校を使用することになるが、避難可能な道路は、低地の住宅地から東側の傾斜地を抜ける道路となり、また、本数がすくなく混乱のおこる可能性がある。したがって、災害弱者（老人、幼児、身体障害者）の歩行を容易にするための対策が望まれる。

防災現況図A(災害発生要因)

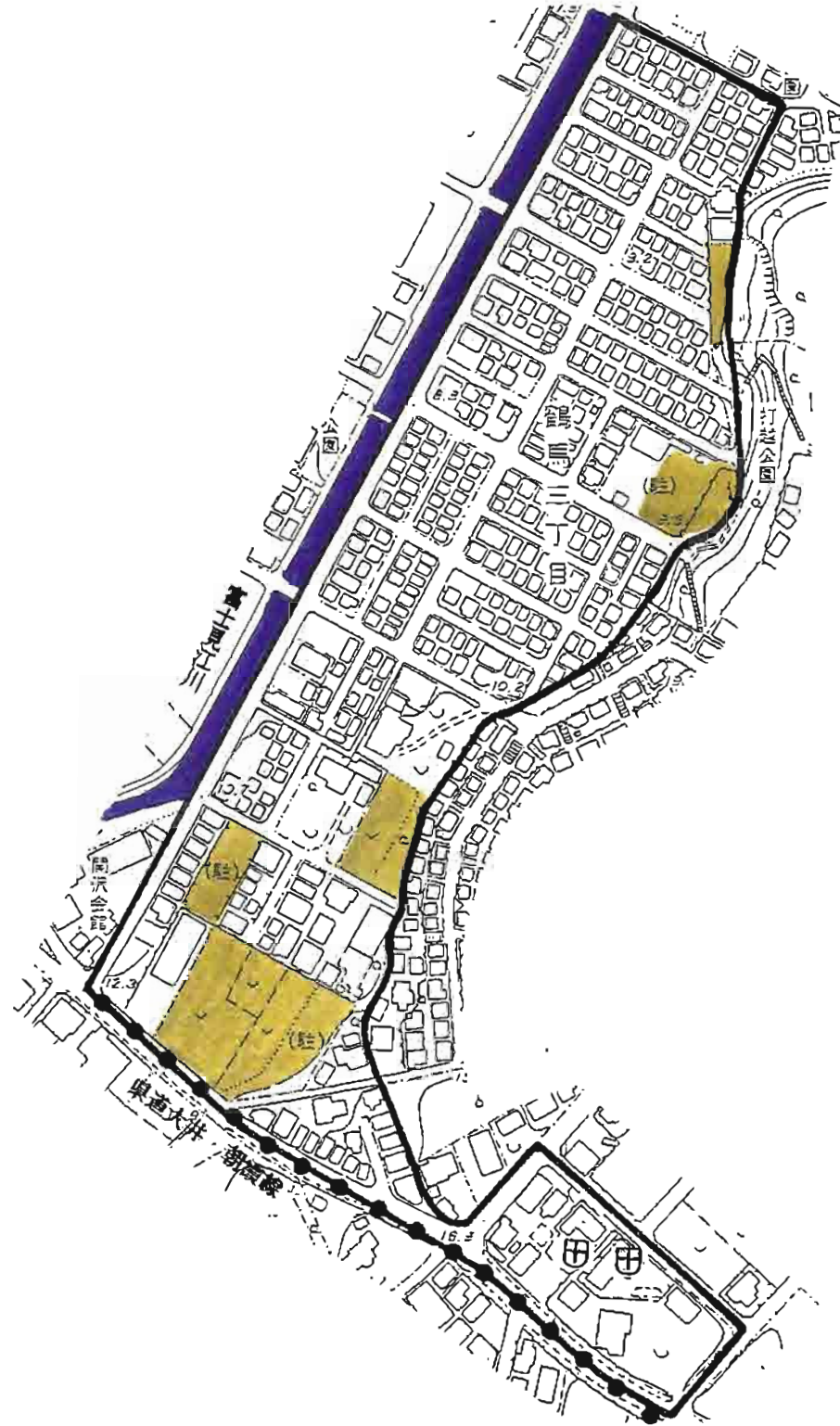


| 凡 例 | |
|-----|--------------|
| ● | 給油取扱所 |
| ■ | 一般取扱所 |
| ⚠ | 危険物屋内タンク貯蔵所 |
| ⚠ | 危険物屋外タンク貯蔵所 |
| ⚠ | 危険物地下タンク貯蔵所 |
| ▲ | L P G 充 填 所 |
| △ | 橋 梁 |
| ▽ | 横断歩道橋 |
| △ | 立 体 交 差 |
| ■ | 木造家屋密集地域 |
| — | 河 川 ・ 水 面 |
| ⚠ | 急傾斜地崩壊危険区域 |
| ■ | 盛 土 |
| ■ | 浅い谷・低地(谷底平野) |

| 既往浸水域(平成3年台風18号) | |
|------------------|--------|
| ■ | 田の浸水地域 |
| ■ | 田の被害区域 |
| ■ | 畑の被害区域 |
| ■ | 床上浸水地域 |
| ■ | 床下浸水地域 |



防災現況図B (災害抑止要因)



| 凡 例 | |
|-----|-------------------------------|
| | 消 防 署 ・ 出 張 所 |
| | 消 防 団 機 械 器 具 置 場 |
| | 水 防 施 設 |
| | 防 火 水 槽 ・ プ ー ル |
| | 警 察 署 ・ 派 出 所 ・ 駐 在 所 |
| | 市 役 所 ・ 出 張 所 ・ 公 民 館 |
| | 防 災 行 政 用 無 線 子 局 位 置 |
| | コ ミ ュ ニ テ ィ ー 集 会 施 設 |
| | 保 健 所 ・ 保 健 セ ン タ ー |
| | 病 院 |
| | 医 院 |
| | 休 日 診 療 所 |
| | 指 定 避 難 所 |
| | 公 園 |
| | 河 川 ・ 水 面 |
| | 避 難 可 能 な 道 路 |
| | 幅 員 12 m 以 上 の 道 路 |
| | 幅 員 12 m 以 上 の 道 路 (計 画 中) |
| | 学 校 (小 ・ 中 ・ 高) |
| | 空 地 ・ 水 田 ・ 畑 |

